

# ジャパクラシック ベンチプレス選手権大会報告

2016年3月12-13日、高知県

写真：IPF 国際審判員、Team Ponze

## 物江 毅

今年のジャパクラシック BP 選手権大会は、3月12、13日「高知市文化プラザかるぽーと」で開催された。全国から230名の選手が集い、盛会となった。会場はとても立派な建物で、7階の広い展示室二つを開放して器具をセッティング、音響も良く場内の暖房も効いてとても良い雰囲気であった。

### 3月12日

#### 第1セッション 一士二官全階級

今大会は、消防士・警察官・自衛官（一士二官）オープンBP選手権大会も併催されており、第1セッションは一士二官全階級の試合であった。私は検量と副審に入らせていただいた。

このセッションで目立ったのは、66kg級で優勝した久米亮平選手（小松島市消防署）、150-155-160と三試技とも成功、F.Pも127.73と高く、ご自分の試合終了後、着替えてジャパクラシックBP大会の審判にも入っておられた。カレンダーイヤーも28歳と若く、今後とても楽しみな選手である。

74kg級では、今大会定連の酒井ジュンヤ選手（貝塚市消防署）が、こちら155-162.5-170と三試技とも成功、一士二官大会第一人者の貫録を見せた。

地元高知からも59kg級の吉良選手（85kgで3位）、66kg級野口選手（110kgで4位）の二名が出場し、場内から盛んな声援を浴びて頑張った。

昨年の一士二官大会は8名と寂しいエントリーであったが、今回は21名の出場で、盛り上がったセッションとなった。

#### 第2セッション 女子全階級

このセッションで私はテクニカルコントローラーを務めさせていただいた。

#### 47kg級

一般及びM1では第一人者の小林ナオコ選手（湘南ベンチプレスサーズ）が、92.5kgで圧勝、F.P127.89で女子ベストリフターにも輝いた。M1の2位は世界マスターBP大会定連の宮本智子選手（ヴィテンのいち）で77.5kg、宮本さんをご自分の試技後二日間ともMCに入って大会を盛り上げてくださった。M2は張吉博子選手（和歌山県PL協会）が60kgで優勝。M4には何と1933年生まれ、全日本大会初出場の小林美都子選手（ゴールドジム行徳千葉）が32.5kgに成功して優勝された。とてもお元気で5月開催の世界クラシック



「おしと参る」標語の面白いジャパクラシックベンチ



ク BP 南アフリカ大会にもエントリーされた。茨城の奥村さん同様、どんどん国際大会にご出場いただきたい。

### 52kg級

一般では常勝の古屋典子選手(個人)が90kgで優勝、二週間前のJCPL大会同様故障上がりで「あまり無理をしません」と語っておられたが小林ナオコさん同様圧勝であった。2位には国際大会定連の松村育子選手(ノーリミッツ)、腰の付きがやや甘く、第二試技72.5kgは赤判定であったが、第三試技75kgはきっちりと決めた。

M1では全日本大会初出場の京都から参戦した武本早恵選手(個人)が55kgで優勝した。

M2は湘南ベンチプレッサーズの木場恵美子選手が70kgで優勝、2位は館林さおり選手(BOD)で57.5kgという結果であった。

### 57kg級

一般で優勝した富山春香選手(TGフリーウエイト)は85-92.5と成功し第三試技では100.5kgの日本記録に挑む元気であった。惜しくも更新できずに終わったが、近い将来間違いなく大台越えに成功するであろうという期待を抱かせてくれた。2位にはご自分の試技後MCでも頑張った山口彩選手(K'sGYM)が70kg、3位は大阪から参戦した増山あゆみ選手(個人)40kgであった。

M1ではご夫婦で参戦した伊藤千帆選手(K'sGYM)が70-75-82.5と三試技とも成功で優勝、2位は湘南ベンチプレッサーズ種橋久美選手が75kgという結果となった。

M2には大ベテラン・日本ノーギアBP界の第一人者・山崎頼子(金太郎SC)が地元の大声援を受け80-82.5-85と三試技とも成功、健在ぶりを見せつけた。

### 63kg級

一般とJRのダブルエントリー、全日本同級王者の石橋茜選手(東洋大学)が、90kgで優勝、フルギア&ノーギアのダブル栄冠に輝いた。外見はおとなしい茜さんであるが、とても勝負強く、世界JRBP大会、全日本BP、本大会と必ず結果を出している精神力は特筆に値する。4月の世界BP大会はエントリーしなかったが、2018年日本開催予定の世界BP大会では、是非とも世界の強豪と覇権争いをしていただきたい。2位は2週間前のJCPL大会にも出場した東京の前野由依選手(個人)が70kgの自己新に成功、見事に結果を残した。

M1は群馬から個人参戦した篠原千絵選手が47.5kgで優勝。M2は和歌山から個人参戦した野尻かほる選手が67.5kgで



宮本JPA会長(右)、佐々木JPA専務理事(左)からメダルを授与された女子選手達



優勝、2位にはちからこぶの中根春美選手が62.5kgで入った。中根さんは試技終了後ちからこぶ補助団に一員として奮戦された。「補助に入るのは初めてです」と語っておられたが、とてもきびきびした動きで試合進行に貢献しておられた。3位は、開会式・閉会式及び試合のMCもこなした森崎祐利里枝選手(チーム鉄腕)が50kgであった。私は関西の試合で、森崎さんとチーム鉄腕オーナー仲さんにいつも大変お世話になっており、今回も三日間夕食を共にさせていただき大変楽しかった。これからも大切にしていきたい交友関係である。

## 72kg級

一般はTXPの金子睦選手と櫻井美幸選手(BIG GUNS)の激しい優勝争いとなった。ともに65-70と成功して迎えた第三試技、金子さんは着実に72.5kgに成功、体重が重い櫻井さんは75kgに挑むも惜しくも失敗で決着がついた。櫻井さんはM1優勝、4月の世界MBP大会にも参戦される。M2は高垣慶子選手(グッドコンディション)が47.5kgで優勝した。

## 84kg級

東前めぐみ選手(K'sGYM)一人のエントリーで、67.5kgに成功、優勝した。

地元の小松麻美選手(有光自動車)が75kgで優勝、JRとダブルエントリーしたやはり地元の金太郎SC所属中野葉子選手が70kgで2位(JR優勝)という結果となった。

## 第3セッション 53kg・59kg級

### 53kg級

JRに福岡B.P.S所属の織田雅選手一人がエントリー、第一試技のみ成功100kgで優勝。

### 59kg級

一般では東坂康司選手(K'sGYM)の一人旅で、どんな記録を上げるかが注目されていた。160-165と順調に成功後、第三試技168kgは楽勝という試技ではなかったが押切り、日本記録を更新した。2位は驚異のM2・湘南ベンチプレッサーズの総帥・高田勇二選手が150kgで入った(M2優勝)。第三試技で自身の日本記録を更新すべく156kgに挑んだが惜しくも失敗であった。3位にはF.P命とこだわる藤田雄次選手、55kgの検量体重で142.5kgという結果であった。

JRの優勝は岸本将司選手(芦屋大学)120kg、2位同記録体重差で今泉諒也選手(個人)、3位112.5kgで谷津選手(TXP)。

M1優勝地元吉澤英太郎選手(元気クラブ)140kg、2位定連幸夫選手(フジモトジム)137.5kg、3位松本宗晴選手(TEAM RED VOLTAGE)。

M2の2位は亀田司選手(チーム度肝)117.5kg、3位大野隆選手(昭和SC)112.5kg。

M3は、大ベテラン白川猛士選手(個人)が健在、120kg



ジャパクラシックを仕切った神岡氏

と元気を披露して下さった。

#### 第4セッション 66kg級

一般は昨年度アジア・オセアニアチャンプ斉藤敬太選手 (BURST LIMIT) が 165kgで優勝、第三試技では 175kgに挑む元気さであったが、惜しくも押し切れなかった。斉藤さんに、暮れのニュージーランド・クライストチャーチのアジア・オセアニア共催大会出場を誘ったところ、「前向きに検討します」という答えが返ってきた。

このクラス2位は 150-155-157.5 と三試技成功したストロングラインオーナー福田将志選手が、3月末には同じ東松山市内にジムを移転するとの事であった。福田さんといえば5年前高知の全日本BP大会で左腕上腕尺骨二本骨折という大怪我をした因縁の高知であったが、今回はとても堅実に試技をされ、また、ストロングライン所属の選手のセコンドでも大忙しであった。女子の部で触れた石橋茜選手はストロングラインでトレしており、順調に力をつけている。3位は谷口修一選手 (BBGYM) 同記録体重差、特筆すべきは6位までが150kgを超えるハイレベルであった。二週間前のJCPL大会でもベストリフター1位、2位が66kg級であった事から、いま日本のPL界で一番強い階級という事になるのであろうか。

JRでは、一般でも4位に入った古川琢真選手が150.5kgで圧勝、2位紺野達矢選手(個人)120kg、3位鈴木馨太選手(TXP)117.5kgという結果となった。

M1は優勝亀谷允男選手(パワーハウス山口)150kg、2位伊東寛之選手(マッスルプロダクション)、3位ノーギア大会初出場となった世界の高橋恵介選手(BIG GUNS)145kg。

M2では外山尚人選手(湘南ベンチプレッサーズ)が140kgで優勝、2位池上範雄選手(HERCULES)135kg、3位132.5kgでベテラン東博志選手(個人)。

M3は世界マスターBP常勝の佐藤恵二選手が135kgで優勝、2位は山本太郎選手(烈剛河内)110kg。

M4では段安忠信選手が元気に115kgで優勝、2位には岩手の大ベテラン岩崎実選手(平泉アスリート)107.5kg、3位、こちらも東京の大ベテラン赤木英治選手(個人)105kgという結果であった。

#### 第5セッション 74kg級

今大会が始まる前から児玉大紀選手が自己のSNSで、220kgを超えるBP練習動画を公開しており、大会でどこまで挙げるかが注目されていた。また、66kg級に出場すれば楽勝のアジアチャンプ鈴木佑輔選手が敢えて74kgにエントリーし、昨年の近畿BP大会で児玉選手に肉薄した試技を再現してくれるのか、関係各位が凝視の中、試技が開



74kg級を征したのは、昨年に続き、児玉選手

始された。

第一試技鈴木さん 200kg、児玉さん 205kg、ともに楽々と挙げ、会場はため息に包まれた。第二試技鈴木さん 207.5kgがステッキングポイントで止まり、粘ったが押し切れず失敗、一方の児玉さんは 215kgをほぼ完璧に決める。第三試技、鈴木さんは 207.5kgを増量せず試技前に児玉さんの優勝が決定。第二試技で粘ったのがたたったのかやはり鈴木さんは 207.5kgを押し切れず、去年の近畿 BP 大会ほどの強さは発揮できなかった。第三試技児玉さんは旧 82.5kg時代に記録した公式戦での自己ベストを超える



べく 220.5kg に挑み見事に成功（私の後方でこの試合を観戦していた一士二官出場の谷田選手がこの状況を私に説明して下さいました。また、上述した 59kg級の藤田選手も児玉さんの生涯記録について把握していた）した。この瞬間、会場は再び歓声とため息に包まれた。

児玉さんとは一士二官セッションの検量官と一緒に努めた際、世界大会について会話をした。「フルギアなら相手はいませんが、ノーギアだとまだ見ぬ強豪が会場に出てくる可能性があり、デイスエイブル並みに強い選手がいなくても限りません。気を引き締めて頑張ります！」と抱負を語ってくださった。一般の部 3 位は JR で優勝した本堂正達選手（リアルスタイル）171kgの JR 日本新記録。

JR の 2 位は 150kg で石井尚紀選手（BOD）、3 位は福田忠浩選手（マッスルプロダクション）で 147.5kg。

M1 では安江三千夫選手（THE STRONGEST WARRIORS）が 175kg で優勝、安江さんは世界マスター BP 大会にエントリーしている。是非とも過去の大会の借りを返してもらいたいものである。2 位には守山哲郎選手（MAT）が 170kg、3 位は松尾有一選手（PEACE GYM）157.5kg。

M2 は佐伯博文選手（西部組）が 145kg で優勝、2 位同記録体重差で井出光弘選手、3 位 140kg 井伊満選手（フジモトジム）140kg。



大活躍のチーム「ちからこぶ」補助団

5年前、同じ高知で骨折した福田選手、見事に復活！



M3 優勝信原英之選手 (エイブルフィットネスC)140kg、2位下山洋二選手 (緑区パワーリフティング協会)122.5kg、3位同記録体重差で大村和久選手 (トヨタ自動車 BB 部)。

M4 では湘南ベンチプレッサーズの諸星孝夫選手が 110kg で優勝、2 位照井清選手 (個人)90kg、3 位同記録体重差でカレンダーイヤー 81 歳の藤田俊夫選手という結果であった。

3月14日

### 第6セッション 83kg級

このセッション、私は検量担当で、検量室にこもりきりで拝見しておらず、レポートは割愛させていただく。結果欄を参照願いたい。

### 第7セッション 93kg級

記録的にはやや低調であったが、力が拮抗した3名の選手が一般の部で大接戦を演じ、最終試技まで栄冠に誰が輝くか判らない面白味のあるセッションであった。

今年から一般となった長谷川直輝選手 (K'sGYM 横浜) は、フルギアの強さでは定評があるが、ノーギアでも200kgに迫ろうとする地力UPで参戦、第一試技195kgに成功。三重から個人参戦の西本裕一選手は192.5kg、優書争いの本命と目されている高取征爾選手 (Golds gym 名古屋) は190kgに成功し、三者とも順調な滑り出し。

第二試技、高取さん、西本さんは195kgに成功、長谷川さんは197.5kgを押し切れず三者同重量となるが、体重差で長谷川さんは暫定首位変わらず、第三試技、長谷川さん、西本さんが197.5kgを申告、高取さんは200kgを申告した。ロットNo. が若い長谷川さんがまず197.5kgに挑むが、第二試技と同じような試技で失敗。成功すればトップの西本さんも同重量を押し切れない。ここで、高取さんは197.5kgに重量変更かと誰もが思ったが、そのまま200kgに挑み惜しくも失敗。優勝長谷川さん、2位西本さん、3位高取さんという事で決着がついた。「なぜ197.5kgに重量変更しなかったか」と聞かれた高取さんは「切が良い200kgを挙げたかった」と答えたとの事であった。

以下4位東京の武田宗久選手 (個人)190kg、5位井上正雄選手 (パウエリジム)182.5 kg (M1 で 2 位)、6 位渡邊勝也選手 (個人) 177.5 kg (M1 で 3 位)、JR は一人のエントリーでB.A.D の瀧本高博選手が140kgで優勝。M1の優勝は村上恵造選手 (個人)185kgであった。M2の部は、中澤禎郁





選手 (K'sGYM) が 170kg で優勝、2 位新屋敷弘明選手 (パワーハウス) 160kg、3 位佐野修選手 (個人) 157.5kg。M 3 の部では、杉崎幹男選手 (旭 SC) 130kg、2 位花田隆選手 (マッスルプロダクション) 100kg という結果となった。

### 第 8 セッション 93kg 級 105kg 級 120kg 級 +120kg 級

このセッションで私は主審を務めさせていただいた。今大会愛知「ちからこぶジム」オーナー福田康宏さんのメンバーを中心としたスーパー補助団は、素晴らしいスピードで重量変更を行い、選手もリズムに乗りやすかったと思われる。

105kg 級一般の部は武田裕介選手 (TXP) と金井誠基選手 (プレスタ) のガチンコ対決と思われていた。検量室で金井さんは第一試技 207.5kg を申告、武田さんは 202.5kg であった。

試合が始まると、このセッション出場の全選手が第一試技成功で、失格者なしが確定。

上位陣は TXP オーナー阿久津貴史選手が 180kg、愛媛たいそうべやスポーツクラブ二宮浩祐選手 190kg、同じく本並伸康選手 (WTC 藤井寺) 190kg に成功、金井さんは 200kg に重量変更して成功、武田さんは 202.5kg を軽く成功。

第二試技阿久津さん 190kg、二宮さん、本並さん 200kg に成功、金井さんは 207.5kg に挑むが失敗、武田さんは 210kg に成功した。第三試技で阿久津さん、二宮さん、本並さんが 202.5kg に挑戦、阿久津さんは失敗、二宮さん、本並さん成功、体重は本並さんが一番軽い。金井さんは不調で第三試技 207.5kg に再度挑むも失敗、武田さんの優勝と 2 位本並さん、3 位二宮さん、4 位金井さん、5 位阿久津さんの順位が確定、武田さんは 215kg に挑むが押し切れず失敗、このクラス 6 位は宮城の小野和久選手 (個人) 180kg (M2 優勝) であった。

M1 の部では、三試技とも成功で安定していた中村敏雄選手 (TXP) で 172.5kg、2 位三種の国際大会定連の小川光寿選手 (竹田運輸倉庫) 155kg、3 位は地元元気クラブの中川毅選手 137.5kg という結果であった。M 2 の 2 位は兵庫の前田光生選手 (チーム鉄腕) 170kg、M4 の優勝は京都から参戦した世界マスター BP 大会出場の長島義孝選手 (個人) 110kg であった。

120kg 級一般の部上位 3 名は、いずれも三試技とも成功と安定感抜群で、優勝は 215kg で大阪・木下進人選手 (個人)、2 位高山洋之選手 (神奈川県警) 212.5kg、3 位が梅林恭行選手 (SUBSTANCE-X) 200kg、さらに同重量体重差で 4 位は僧侶で幼稚園園長という異色の宮本覚道選手 (あかつき幼稚園) という順位であった。

M1 の部、優勝は井上健選手 (BBGYM) 172.5kg、2 位西古裕志選手 167.5kg。



M2の部は伊藤智選手1名のエントリーで180kgに成功した。

## 120kg超級

最強のSubJR 藤本竜希選手(リアルスイング)がノーギアでどこまで挙げるかという期待で試合を観戦した方が多かったと思われるが、藤本君第一試技200kgのみ成功で、一般とSubJRの部の優勝であった。

M1の部にエントリーした愛媛県から参戦の石井孝敏選手(個人)は、検量室に「私160kgあるんです」といって入ってきた。ところが検量の結果は173.4kgの超ヘビー級、もちろん参加選手中最重量である。日本人には珍しいナローグリップ、ノーブリッジのフォームで180-205を軽く成功。第三試技では、日本新記録となる220.5kgに挑戦し、これも楽々クリアした。しかもまだ数ヶ月のBP経験しかないとの事、世界クラシックBP大会にもエントリーされた石井さん、240~250kg位はすぐにも成功させそうに思われる。とんでもない選手が出現してくれたという印象だ。

団体戦 一般の部は、優勝TXP 2位K'sGYM 3位ストロングライン

マスターズの部では、湘南ベンチプレッサーズがK'sGYMを抑えて見事栄冠に輝いた。公立の体育館を中心にトレーニングしているチームの大健闘である。

こうして盛り上がった今大会が終了した。南アフリカで5月開催の世界クラシックBP大会で本邦の選手がどこまで結果を出してくださるか、今からとても楽しみである。

今大会を開催して下さった高知県協会を始めとする四国ブロックの役員各位、力強い試技を披露してくれた参加選手各位、それと世界一といっても過言ではない程の素晴らしい補助団「ちからこぶ」「関西学連」の皆さんに感謝してレポートを終えたいと思う。

皆さん本当に有難うございました！ 日本のBPは世界最強です！！

